

外国人材を活用した事例（野菜）

【(株)指宿やさいの王国（指宿市）】

（令和7年2月）

経営の概要

【栽培品目・面積】

- 経営面積 畑201ha
- 品目別面積
 - キャベツ70ha, レタス65ha
 - リーフレタス2ha, サニーリーフ3ha
 - ロメインレタス1ha, サツマイモ60ha

【経営の変遷】

- 平成16年に設立
- 令和2年にGLOBAL G. A. P. 認証取得



労働力の現状

- 従業員数 48人
- 外国人材 29人
 - ・技能実習：インドネシア4人
 - ・特定技能（周年雇用）：フィリピン, インドネシア, タイ合わせて25人
 - ・秋～春はキャベツ・レタス類を栽培し, 夏場はサツマイモのほか北海道でも野菜を生産しており, 年間を通じて人材が必要
 - ・日本人は新規で雇用しても続かないことが多く, 労働力確保が難しい状況である。農業人口が減少している日本では, 外国人材の雇用が必要と感じる。

特徴的な取組等

- 外国人材関係
 - ・外国人材の定着に向けた取組
 - ・外国人寮の整備
 - ・能力に応じた給与のベースアップ
 - ・年1回の社員旅行や, 定期的な社内バーベキューの実施
 - ・大型特殊免許取得費用の補助
 - ・特定技能2号の取得を希望する人への勉強会の開催 等
 - ・外国人材が働きやすい職場環境づくりやキャリアアップを支援する体制を整えている。
 - ・技能実習期間が終了し帰国した外国人材が, 特定技能として再度勤務するなど, 長く働く人材が育ちつつある。
- 人材確保の方針（増減など）
 - ・栽培面積の拡大に合わせて, もう少し外国人材の受入れを増やしていきたい。
 - ・長く勤めたい, 家族を呼びたいなどのキャリアプランを持った人材がいる。特定技能2号の取得を希望する外国人材の支援をしていきたい。